

門祖日隆聖人物語

第14回



550

色ヶ浜から敦賀に戻られた門祖聖人。ここで真言宗の大勝寺住職・円海法印という人と、三日三晩の法論をされたんだ。そして門祖聖人はこの法論に勝たれ、お寺も信徒も全部が御題目のご信心をするようになったんだ。今回は敦賀地方のご弘通のお話。

敦賀のご弘通

紺屋五郎右衛門

色ヶ浜でのご奉公を終え、村の人々と別れを告げ、門祖聖人は船で敦賀の浜に向かわれたんだ。

この船に乗っていた呉服商の紺屋五郎右衛門は、船の中で門祖聖人が色ヶ浜で多くの人々を助けたことを知り、御題目のご信心に大変な興味を持ったんだ。そして、もっとたくさんご信心のお話を聞かせていただきたいと、門祖聖人に敦賀の自分の家にお泊まりいただき、お話しして下さいようお願いされたんだ。

紺屋五郎右衛門は、門祖聖人の穏やかなお人柄や御題目のご信心の尊さに引かれ、早々に先祖の宗旨を変えて御題目のご信心になることを誓われたんだ。

ところが、紺屋五郎右衛門の家は、先祖代々真言宗の大勝寺というお寺の有力な檀家（信者）だったんだ。そのため、この大勝寺の住職の円海法印は、紺屋五郎右衛門を呼びつけ大変強く怒ったんだ。

紺屋五郎右衛門は、もうすでに御題目のご信心になることを決めていたんだけど、あまりに円海法印が反対するので、「門祖

聖人と法論（どちらの教えが正しいか意見を戦わせること）して、あなたがお勝ちになれば、お詫びして真言宗に戻ります。しかし、あなたが負けたなら、どうぞ私のこ



円海法印と三日三晩の法論を

とをあきらめて下さい」とお願いしたんだ。

大勝寺の住職・円海法印は、この申し出に「その旅僧の日隆（門祖聖人）とやらを呼べ。すぐに勝負をしてやる！」と、紺屋五郎右衛門に命じたんだ。

三日三晩の法論

結局、呉服商の紺屋五郎右衛門の件は、

門祖聖人と大勝寺の住職・円海法印が、法論をして決着をつけることになったんだ。門祖聖人は、自ら大勝寺の円海法印のもとに向かれ、そこで三日三晩にわたる大法論が展開されることになったんだ。

この法論の間、大勝寺の僧侶や檀家（信者）たちも、みな集まって興味深くこの法論を真剣に聞いていたんだ。また紺屋五郎右衛門も門祖聖人の傍でお給仕にあたり、紺屋五郎右衛門の妻も三度の食事を自宅から運び、門祖聖人にお供養されたんだ。

やがて三日目の夜、大勝寺の住職・円海法印は、突然、自分の真言宗のお数珠を切り、潔く負けを認め、その場で御題目を唱えられたんだ。

大勝寺は本勝寺に

法論に敗れた円海法印は、即座に門祖聖人のお弟子となり、真言宗の教えを捨てて御題目を弘める僧侶になることを誓われたんだ。また、円海法印の弟子であった円珠、覚円、照円の三人も改宗。紺屋五郎右衛門をはじめ大勝寺の檀家（信者）も、皆お寺をあげて御題目のご信心になったんだ。門祖聖人は、円海法印に正法院日従と新たな名前を授けられ、大勝寺も「本勝寺」と名前を改められたんだよ。



敦賀『本勝寺』の門前